

# 社会科学学習指導案

## 単元名「武士の世の中へ」

令和元年6月25日(火) 第5校時 6年〇組教室  
6年〇組 指導者 〇〇 〇〇

### I 単元の構想

#### 1 身に付けさせたい資質・能力および児童の実態

	身に付けさせたい資質・能力	児童の実態
知識・技能	源平の戦い、鎌倉の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことへの理解。遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめる技能。	一つの資料からわかったこと、気付いたことを見つけまとめることはできるが、様々な資料から必要な情報を集めたり、まとめたりする力が不足する児童が多い。
思考力・判断力・表現力	世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現する力。	歴史上の主な人物のどんな取り組みをしたのかに着目し、その人物の立場に立ってどのような思いや願いがあったかの考えをもつことはできるが、様々な事象との関連をもとに理由を考えたり言語などで表現したりする力は乏しい。
学びに向かう力・人間性	源平の戦い、鎌倉の始まり、元との戦いの相互の関連、意味を多角的に考える力。考えたことを説明したりそれらを基に議論したりする力。	複数の資料や事象との関連性、歴史的背景、つながりまでを考えたり、考えたことを組み立てて、説明したりすることは難しいと感じる児童が多い。

#### 2 目標

源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いなどの出来事について調べ、これらの事象を関連づけたり統合したりして考え、白地図や年表、文章にまとめたりする活動を通して、武士の世の中が始まったことを理解することができる。

#### 3 評価規準

##### 【関心・意欲・態度(ア)】

- 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いなどの出来事とそれにかかわる人物に関心を持ち、進んで調べようとしている。

##### 【思考・判断・表現(イ)】

- 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について学習問題や予想、学習計画を考え、表現する。
- 武士による政治が始まったことやそれらに関わる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味などについて、思考・判断したことを適切に言語などで表現している。

##### 【観察・資料活用の技能(ウ)】

- 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらに関わる人物の働きや代表的な文化遺産について、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取っている。
- 調べたことを文章や白地図や、年表、作品やノートなどにまとめている。

##### 【社会的事象についての知識・理解(エ)】

- 武士が登場し武士による政治が始まったこと、源頼朝が鎌倉に幕府を開いたこと、元との戦いが幕府の支配にも影響を及ぼしたことを理解している。

#### 4 単元計画および指導方針

時	選	学習活動	評価	指導方針
1	つかむ	「武士のやかたの様子(想像図)」を見て、武士の生活の様子、武士と貴族のちがいなどについて、気付いたことを話し合い、単元の課題を立てる。 <b>&lt;単元の課題&gt; 武士の登場により、世の中はどのように変わったのだろう。</b>	ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>武士のイメージをふくらませることができるように、武士と貴族のちがいについて図を見て比較し、発表させる。</li> <li>武士団の中では、源氏と平氏の勢いが特に強かったことを理解できるように、読み物等の図書資料の環境を整え、様々な作品に触れる機会を与える。</li> </ul>
2	追究する	平清盛を中心とした平氏の活動、平氏による武士の政治の始まりについて調べる。	エ	<ul style="list-style-type: none"> <li>貴族の藤原氏が行った政治と武士の平氏が行った政治の特徴がイメージできるように共通点と相違点について考えさせる。</li> </ul>
3		源平の戦いで、源氏はどのように平氏を破ったのかについて調べ、平氏が滅びた理由について考える。	イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>武士が政治を動かすようになっていったことが理解できるように絵図や年表から読み取る活動を行う。</li> </ul>
4		幕府(将軍)と御家人(武士)のつながり(ご恩と奉公)について教科書で調べる。	ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物の思いを想像できるように、吹き出しを用いる。</li> </ul>
5 【本時】		蒙古襲来絵詞の絵や資料を見て、元との戦いの様子を調べ、御家人(武士)たちが元寇後に、幕府に対して考えたことを話し合う。	イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者同士で学び合えるよう話し合いの場を設定する。</li> <li>考えを深められるように、児童の発言に対して問い返す等、発問を工夫する。</li> <li>国内、世界の動きや出来事に関連する地理的要因をイメージしやすくするために、地球儀、地図などを用いる。</li> </ul>
6	まとめる	武士の登場から元との戦いまでの出来事や人物を年表に整理し、振り返る。	イ	

## II 本時の学習

<ねらい> 元と戦った武士たちの思いや戦いの後の幕府と武士の関係の変化を考えることができるようにする。

学習活動	指導上の留意点
<p><b>1 資料から元軍と日本の戦いがあったことを知る。(5分)</b> T: 元と日本で鎌倉時代に2回戦があったよ。元は、ものすごい大群で2回日本の九州(福岡県博多湾)に攻めてきた。</p> <p><b>2 武士たちは、どんな願いや思いで戦いに挑んだかを考える。(5分)</b> T: 御家人の武士たちは、どこからの命令で戦いに行くことになったのかな? 幕府に対して武士たちは、どんなことを願ったかな? 何て思ったかな? S: たくさん領地をもらいたい。なんとかして、国を守りたい。 T: 実は、この戦いの結果だけ、日本が勝ったよ。じゃあ、勝った後、武士たちは幕府に対する願いが叶って満足だったかな? そうではなかったかな? T: 今日めあては?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>&lt;めあて&gt;元との戦いに勝った後、武士たちは、幕府に対して満足したか? それはどこから分かるか?</b></p> </div> <p>T: 理由のキーワードがありそうかな? 元と日本の戦い様子の板書を見て。 S: ○ご恩と奉公 ○領地 ○一所懸命 ○恩賞 ○元(外国)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本を攻めた「元」がどういう国かについて興味をもてるように、地球儀、絵地図を用いる。</li> <li>元との戦いは、やむをえない戦いであったことがわかるように、執権北条時宗が、国書に対応したことをおさえる。</li> <li>元と日本の戦いの違い(人数、戦法、武器)、防御のための石塁が分かるような資料を扱う。</li> <li>前時に学習した幕府と御家人のご恩と奉公の結びつきの関係をおさえられるように、板書に示しておく。</li> <li>武士達がどんな願いや思いで戦いに臨むことになったのかを想像できるように、児童に武士の願いを発言させる。</li> <li>武士たちは、戦いで活躍したことで幕府から褒美がたくさんもらえたのではないかな? 大満足したかもしれないことを想起できるように、ゆさぶりながら、めあてを児童の言葉で設定するようにする。</li> </ul>
<p><b>3 個別に課題を追究する。(5分)</b> T: 満足した(○)、満足しなかった(×)の中から2択をしよう。 どうしてそう思うのかについて理由を書いてみよう。 S: ○ 一所懸命戦ったから、幕府からとても誉められたと思うから。 S: × 幕府から領地をもらえなかったと思うから。</p> <p><b>4 追究したことをペアで発表確認し合う。(2分)</b> T: お互いの考えを発表し合い、自分の考えにないところを見つけよう。</p> <p><b>5 全体で発表し、話し合う。(15分)</b> T: ○、×それぞれどんな理由があるかな? S: ○元の土地をもらって幕府から領地も分けてもらったと思うから。 T: もらえたのかな? もらえなかったのかな? S: ×。奉公したのにご恩がなかったから。 S: ×。武士もたくさんお金がかかったから。幕府は、石塁でたくさんお金を使って、ごほうびをあげられなかったから。 S: ×。外国だから領地は増えなかったから。 T: では、みんなの意見をまとめると、武士達は・・・満足し・・・</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己決定、思考の可視化がしやすくなるように2択(・満足した・満足しなかった)のどちらかに名前マグネットをミニホワイトボードにはりつけさせる。最後に自分の考えは変えてもよいことを伝える。</li> <li>思考しやすいように表現方法は、吹き出しや、図で考えを示してよいことを伝える。</li> <li>板書をもとに理由について考えることで、幕府側の財政状況や、御家人自らの戦費の工面などの多大な負担があったことなどが幕府と武士の関係の崩壊の要因となったことにも気付かせる。</li> <li>武士の不満の高まりから、幕府と武士の関係の崩壊という結果まで気付かせられるように、児童に問い返していく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【評価項目】思考・判断・表現(イ)</b>(ノート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「蒙古襲来絵詞」や石塁、絵地図などの資料から、戦いの様子について読み取ったことをもとに、武士たちの思いや幕府と武士の関係を考えて表現している。</li> </ul> </div>
<p><b>6 学習のまとめをする。(13分)</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;まとめ&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元との戦いの後、武士たちは、幕府に対して不満を高めた。</li> <li>(理由) 恩賞を得るために一所懸命に戦ったが、幕府から領地をもらえなかったから。</li> <li>(結果) 幕府と武士の関係もくずれた。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;振り返り&gt;</b></p> <p>T: 幕府に対する武士たちの思いを考える時、友達の見方で、参考になったことは何か? S: (例) ○○さんの△△という理由は、自分では思いつきませんでした。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご恩と奉公で結びついていた幕府と御家人(武士)の関係がくずれたことがおさえられるように、前半に提示していた関係図を再確認し、視覚的な理解も促す。</li> <li>武士の思い、幕府と武士の関係の変化に対する考えが深まるように、視点をしばって振り返りをさせる。</li> <li>振り返りの中で、お互いの考えの良さや深まりに気付けるように、数名に発表させる。</li> </ul>

板書計画